

スウェーデンにおけるパーソナルアシスタンス制度

The Social Services Act (SoL)

(総合立法)社会サービス法

- application for measures to the municipality
自治体への措置の申請
- examples on measures are 対策例は
 - personal contact コンタクトパーソン
 - special housing 特別な住宅
 - home services ホームヘルプサービス
 - companion service ガイドヘルパー
 - meaningful occupation 意味のある職業

The Act Concerning Support and Service for Persons with Certain Functional Impairments (LSS)

一定の機能障害をもつ人々に対する援助とサービスに関する法律
(LSS)L: 権利、S: サービス、S: サポート

- a complement to other legislation 他法律を補足
- a legal right to 10 basic measures 10の基本的な施策の法的権利
- the measures are: 施策は
 - consultation and other personal support 相談その他の個人的な援助(専門的な相談)
 - personal assistance パーソナル・アシスタンス
 - companion service ガイドヘルパー(外出時の付き添い)
 - personal contact コンタクトパーソン(生活アシスタント)障害者宅を訪問し、日常生活の助言を行ったり、孤独にならないために社会生活に参加したりすることを援助
 - relief service in the home 家庭内にいて親の代わりに一時的、定期的に介護を行う
 - short stay away from home 定期的、緊急的なショートステイ
 - short period of supervision for schoolchildren 12歳以上の障害児を登校前後、休暇中世話する学童保育
 - family homes or homes with special service for children
 - 家族と同居できない児童、青少年のための里親あるいはケア付き住居
 - residential arrangements with special service for adults
 - 成人のためのケア付き住居(障害者住居、グループホーム)
 - daily activities デイケア(就労、就学していない障害者の日中活動)

The Health and Social Care Inspectorate is responsible for supervision and monitoring

保健・福祉検査局は、監督・監視する責任がある

- central supervision, monitor, support and evaluate activities, take initiatives for change and provide information
 - 中央の監督、監視、サポートや活動を評価し、変更や情報提供のために主導する
- LSS and SoL; supervisory authority in the regions for measures, responsibility to inspecting them
 - LSSとSOL: それらを検査する責任や対策のための地域における監督当局
- provide information and advice to individuals and municipalities
 - 個人や自治体へ情報やアドバイスを提供

Expenditures for measures for Persons with disabilities (LSS, SoL 2012)

障がい者のための施策に係る支出

- LSS, SFB (municipalities) → 38 800 000 000 SEK (5,820億円)
LSS, SFB(自治体)
 - SoL (municipalities) → 9 900 000 000 SEK (1,485億円)
SoL(自治体)
 - Social Insurance Act (SFB, national level) → 21 400 000 000 SEK (3,210億円)
(総合立法)社会サービス法(SFB、全国レベル)
- (合計 1兆515億円)

Personal assistance

パーソナル・アシスタンス

Persons with disabilities should be able to live an independent life with good living conditions and freedom of choice

障害者は、良好な生活条件や選択の自由で独立した生活を送ることができるはずである

The individual can choose which performer he/she wants for the personal assistance

彼/彼女はパーソナル・アシスタンスの実施者を選ぶことができる

Appreciated benefit, high costs

有難い便益、高コスト

Personal assistance, expenditure/year

パーソナル・アシスタンスの支出/年

* 2002: 7,5 billion SEK – 2012: 21,4 billion SEK

1125億円 – 3210億円

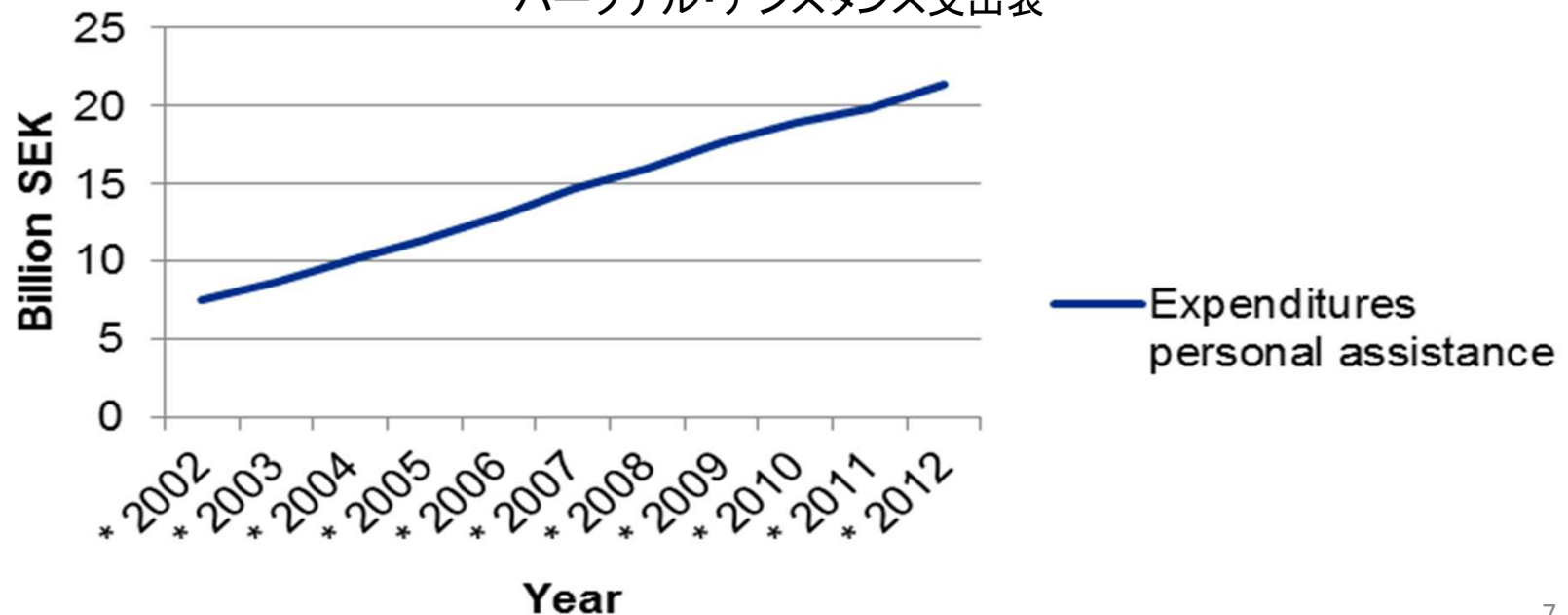
* 2002: 11 600 persons – 2012: 16 000 persons

11,600人 – 16,000人

(1人当: 969万円 – 2,000万円)

Expenditures personal assistance

パーソナル・アシスタンス支出表



Personal assistance – State of Play

パーソナル・アシスタンス 実施状況

- government proposal on fraud and overutilization (2012)
不正行為や支出過多に対する政府提案
- government committee assigned to analyze the economic compensation (2013)

政府の委員会は経済的な補償を分析するために当てられた(2013年)

- debate on the regulation of "basic needs" in the Social services Act (SFB)
社会サービス法における「基本的ニーズ」の規制に関する議論

Challenges for Swedish Disability Policy – a summary

スウェーデンの障がい者政策の課題 – まとめ

- Demographic development, organization and financing 人口動態、組織と資金調達
- Wide range of measures but sometimes lack of coordination
・ 広い一連の措置が時折調整不足
- Attitudes and access to labor-market
・ 労働市場への動向とアクセス
- Inclusion of children with disabilities in the school-system
・ 障がい児を学校制度に含める
- Remove obstacles for full participation
・ 完全参加のために支障を取り除く

PAについて

- ・障害者が自分たちの生活を自分たちで支配できるようになった。
- ・24時間サポートが必要な人も、結婚して子どもをもてるようになった。
- ・政治的にも障害者問題の大きな解決になったが、費用が急増している。
- ・急増しない手段を作るのが難しい。
- ・PAの利用者は、知的障害、自閉症が85%。
- ・法的には、PAの研修の義務付けはない。

費用高騰の理由

- ・高齢になる以前にPA使っていた人は、65歳を過ぎてもPAを利用する。
 - ・PA派遣は株式会社が多いため、利益の観点から時間を減らすという方向がない。
 - ・SWでは、福祉サービスは公的セクターが供給の中心だったが、株式会社がPAに進出してきている。
 - ・市によっては、公的セクターを廃止して、全て民間セクターにしてしまった市もある。
 - ・利益の制限がない。今後、利益の制限をするか検討している。
-
- ・PAは扱いにくく、悩んでいる。
 - ・障害者権利条約を満たすためには、自分から要求しにくい人を援助する必要。

こんにちは！私の名前はマリア・ダール、私はSTILのメンバーです。
この映画では、パーソナル・アシスタンスとして働くあなたに、STILに関するいくつかの情報を与えたいと思う。
まず、スウェーデンにパーソナル・アシスタンスがある理由を知ってもらう。

STILの歴史。

私はスウェーデンに移住する前に8年間アメリカに住んでいた。

アメリカでは、私は自分のアシスタントを持っていた。そして、私はドイツ政府からのお金で彼らに支払うことが可能だった。

スウェーデンのSTILの創設者アドルフ・ラツカ

スウェーデンの私の友人は、将来に希望がなかった。

彼らは非常に落ち込んでいるようだった。

私は私自身のパーソナル・アシスタンスを必要としていた。スウェーデンでは、介護センターを通じてアシスタンスを得ることしかできなかった。私は私の思った人生の道を計画することができなかった。

それは、持続不可能なことだ。

私は、受け入れなくてはならなかった。パッケージに付属していることを。

1983年に私は自立生活についての会議を準備した。

自立生活は、運動であり哲学だ。

私たちの目標は、健常の隣人、友人や家族と同じように、社会の中で住み、働き、愛することができる可能性をもつことである。

私たちは、同じ水準の自己の権利の実現を望んでおり、それ以上でも絶対にそれ以下でもない。

1984年に私たちのグループの一つは、スウェーデン政府からプロジェクトのためのお金を受け取った。

私たちは、パーソナル・アシスタンスの本当の働きを見せたかった。

ベンクト・エルメン 理事1986-1991

これは、私たち協同組合のメンバーが初めて私たち自身の職員を雇うことができるようになることを意味した。

それは、私たち自身のアシスタンスに対するコントロールを最大限にするために、まさに私たちが望んだものだった

私たちは、パーソナル・アシスタンスを通じて個人の目標を達成したかった。

選択の余地がない時は大きな問題だ。自分の考えを全く違うものに変えざるを得ないことに行き着いた。

私たちは政治家を説得しなければならなかった。

私たちは、さまざまなメディアチャンネルに登場した。

姿勢の変化があった。

全く予想外に、私たちに当時の社会省大臣だったベンクト・ウェステルベリからの訪問があった。

訪問後、彼と彼の党は、スウェーデンのパーソナル・アシスタンスをサポートすることを決めた。

つまり、LSS法の中に入ったのだ。

特定の機能障害者のためのサポートおよびサービスに関するスウェーデンの法律(LSS)

私たちは、それを私たち自身でやった。

私たち自身が主導して。

マーティン・ターフィエイ・カリン・オーマンフィルム2013年

STIL 2014

PAの利用者は2万人、8万人のアシスタントが働いている
PAは年250億クローナ(3750億円)かかっているが、費用の大半は賃金
賃金は消費税、雇用税として国に戻っていく
STILはPAの唯一の団体ではない
数百の組合や会社がPAを派遣している
1時間当たりの報酬額は280クローナ(4200円)
平均週110時間の支給決定(年2400万円)
アシスタントの申請が却下される人が増えている
STILの利用者192人
アシスタント1400人(内60人がスーパーバイザー)